

# 4月消費者物価 3.4%上昇

## 食料品・宿泊の値上げ響く

総務省が十九日発表した四月の全国消費者物価指数(二〇二〇年＝一〇〇、生

で物価高が続いていた一九八一年九月以来、四十一年七カ月ぶりだ。

鮮食品を除く)は、前年同月比3.4%上昇の一〇四・八だった。前年同月を上回るのは二十カ月連続。政府による電気・ガス代の抑制効果があった一方で、食料品や宿泊料などの値上げの影響が大きく、伸び率は三カ月ぶりに拡大した。

品目別では、生鮮食品を除く食料の上昇率が9.0%で、三月の8.2%から拡大。七六年五月の9.1%以来、四十六年十一月ぶりの伸びとなった。原材料費や人件費の上昇を価格に転嫁する動きが進んだ。宿泊料は8.1%上昇し

資源や原材料の価格高騰と、輸入品の金額を押し上げる円安を背景に、物価は上昇基調が続く。指数の伸び率は一月に4.2%まで拡大した後、二月以降は電気・ガス代の抑制で3.1%に下がったが上昇ペースが再加速した形だ。

国内で旅行需要が高まり、新型コロナウイルスの水際対策の緩和で訪日客が増えていることも影響した。

生鮮食品とエネルギーを除く指数は伸び率が十一月連続で拡大し、4.1%となった。第二次石油危機

一方、電気や都市ガス、ガソリンなどの料金を含むエネルギーは4.4%低下。総務省の試算によると、電気・ガス代の抑制と全国旅行支援を合わせた政策効果は、生鮮食品を除く指数の伸び率を約1.1%押し下げた。